

今回のバイオマスタスクフォースセミナーでは、東京大学生産技術研究所の望月和博先生によるバイオマス利用についての講演、三菱総合研究所プラチナ社会研究センターの赤川彰彦客員研究員による太陽光発電事業を中心とした地方都市活性化についての講演、農業生産法人水杜の郷による管理する農地への太陽光パネル設置現場見学会が行われました。

望月先生の講演は、バイオマス利用とバイオマス利用の計画例についてでした。バイオマス利用の現状と課題を具体例を交えてわかりやすく紹介されていました。

赤川客員研究員の講演は、日本の地方都市で起きている人口減少という問題に太陽光発電事業を主軸に解決を試みた事例の紹介でした。鹿児島県いちき串木野市で『環境維新のまちづくり』というコンセプトで環境負荷の少ない工業団地、再生可能エネルギーの普及・実証実験といった事が行われました。この取り組みは太陽光パネルを設置する事業者同士の合意、金融機関からの無担保無保証融資、市から発電事業を行う合同会社への出資など安定して事業を進めるための条件を揃えたことで成功できたと分析していました。この事業が表彰され注目を浴びることで観光資源となり視察数や滞在人数が増え地域活性化に効果があったようです。成功した事例の成功理由や行政と合同で事業をやる難しさといった話を交えてとても興味深い講演でした。

最後は水杜の郷が行う農地への太陽光パネル設置現場見学を行いました。2メートル以上の高さに太陽光パネルを設置し太陽光パネルの下で朝鮮人参といった収益性の高い作物を生産する予定です。見学時は太陽光パネル設置前でしたので、広大な農地が広がっているだけでしたが今後の展開が期待されています。

今回のセミナーへの参加で、自身が住んでいるつくば市で大規模な農地への太陽光パネル設置が行われようとしていることを初めて知りました。今後のセミナーが勉強会だけでなく、様々な団体の取り組みの報告や宣伝をすることができるような場になるとより良いと感じました。